

会報
峠 とうげ
河井継之助記念館
友の会会報
第5号【特別号】
2009.07
題字 田中玉剛

編集・発行
河井継之助記念館
新潟県長岡市長町1丁目1675-1
〒940-0053
Tel.0258-30-1525
Fax.0258-30-1526
頒布価:50円(送料別)

第八回全国藩校サミット in長岡を終えて

河井継之助記念館友の会顧問
旧越後長岡藩牧野家十七代当主 牧野 忠昌

今年六月二十日、二十一日の

両日、第八回全国藩校サミットは長岡市で開催された。当日は天候にも恵まれ、会場は予定していた一千五百人をはるかに超え、県外から約三百人、県内から約一千三百人と多くの参加者であった。県外の参加者が多かったのは、一つには長岡というところは戊辰戦争の折、西軍とよく戦った場所であるという認識や、司馬遼太郎の「峠」に出てくる河井継之助のいた町、という馴染みがあったからかもしれない。観光地として全国的にさほど知名度は高くないが、長岡は以前から何か気になる土地、この際だから行ってみようかなと心を動かされるような街で

あったのではないだろうか。

藩校サミット事務局は一年前から、どのようなにすれば長岡らしいおもてなしができるかに心を配り、今までの藩校サミットを参考に、極力華美に流れないように、長岡の良いところが十分に発揮できるようにと考へ努力した結果が、この入場者の多さに表れたのだと思う。当日の朝、JR長岡駅で下車



藩校サミット会場

牧野忠昌(まきの ただまさ)プロフィール

昭和16年(1941)東京都生まれ(現在67歳)。京都で育ち現在逗子市在住。31年間農林水産省水産庁に勤務、この間、沖縄開発庁・科学技術庁に転出。柏友会(旧越後長岡藩藩士会)名誉会長、(社)禮会館評議員・伝統文化委員、衣紋道研究会会長、(社)尚友倶楽部評議員。

された各藩の殿様の末裔の方々をお迎えするにあたり、長岡高校の生徒さん達がそれぞれ担当の藩校名を大切に手に持ちお出迎えをしてくれた。到着されたお殿さま方はこの歓迎に大変お喜びであった。江戸時代の長岡藩校崇徳館は、幕末までの六十年間優秀な人材を多数輩出し、明治以降も長岡や他の土地で活躍した人材が多いことを、他県の皆様がよく御存じであったのも嬉しいことであった。各藩校関係者の多くの方々からも、とても教育熱心な街ですなとおっしゃって頂いた。

えがあり、歴史好きの方には、北は津軽藩から南は薩摩藩までまたない光景に接する機会であったのではないかと思った。米百俵の精神を学んだ生徒さんたちの一生懸命な論語素読もさすがに感動的な発表だった。夜の交流会では約三百五十名の御出席をいただき、神田囃子、越後酒造り唄など珍しい趣向が披露され、これもまた長岡らしい会を盛大に行う事が出来た。翌日の視察研修でも予定をはるかに超える参加者で、担当者からはうれしい悲鳴が上がったが、案内の名ガイドは皆様に大変喜ばれた。

終了後ご出席の殿様からは、楽しかったという感謝の御礼状を多々頂き、出席できなかった殿様からは、誠に残念であったとの言葉を頂いた。鼎談に参加して頂いた櫻井よしこ氏は、間髪を容れず週刊新潮誌に藩校サミット記事の掲載をして頂き、全国に発信して頂いたことも大きな成果であった。

参加者と関係者の皆様に心より感謝申し上げますと共に、日本の教育を見直す機会を得たことにより郷土長岡の発展の一助になったのではないかと自負している。

崇徳館蔵書印／長岡市立阪之上小学校提供

峠抄 とうげしやう ④

藩校サミットが大盛況に終わった。サミットでは、視察研修も行われ、当河井継之助記念館にも藩主の末裔や藩校関係者をはじめ、一般の方も続々と訪れた。当館では、継之助の人間像を感じてもらえるよう資料とパネルで展示している。多くの人であふれている中でも、自分の興味、関心のあるところで足を止めてじっくりとご覧になられている様子がわかる。

閉館後、静まり返った館内を見る。継之助は「人ひとり個性と能力を発揮する豊かな社会を実現しようとした」とある。まさに、これは、サミットで論じられた「藩校教育とは人格を育てる人材教育だ」という理念と同じではないかと改めて思った。また、両親を思いやる心、民衆を思う心、正しいことは正しいと言っ強い心、継之助の心にもふれると今足りなくなっているもの、大切にしなければならぬものを考えさせられる。当館を訪れた人の感想に「河井継之助生誕の地を訪れ、その軌跡にふれることができて感無量だ。学ぶことの多い人物だ」とあった。継之助から学ぶことは、果てしない。(神保)

孝弟忠信を以て修身の具と為すべきなり

孝弟忠信 儒教でいう四つの徳。親に孝行をつくし、年長者に従い、忠実で、信義に厚いこと

(文化十三年「崇徳館学記」より)

文化五年(一八〇八)四月二十八日、千手口御門正面、追廻し角(現・殿町二)に学問所が創設された。藩校崇徳館の誕生である。藩主は、九代牧野忠精。名家老山本老迂斎補佐のもとで頭角を現した、言わずと知れた名君である。廻ること約二十年、寛政異学の禁が発布され、幕府の学問所である昌平坂学問所での講義は朱子学だけで行われていた。学問統制は国内全てに適用されたわけではなかったが、多くの藩がこれにならった。長岡藩の場合は古義学を藩学を中心に据え、徂徠学や朱子学と競わせている。ここに、長岡藩の教育に対するおもしろさが見える。

文化十三年(一八〇八)四月二十八日、千手口御門正面、追廻し角(現・殿町二)に学問所が創設された。藩校崇徳館の誕生である。藩主は、九代牧野忠精。名家老山本老迂斎補佐のもとで頭角を現した、言わずと知れた名君である。廻ること約二十年、寛政異学の禁が発布され、幕府の学問所である昌平坂学問所での講義は朱子学だけで行われていた。学問統制は国内全てに適用されたわけではなかったが、多くの藩がこれにならった。長岡藩の場合は古義学を藩学を中心に据え、徂徠学や朱子学と競わせている。ここに、長岡藩の教育に対するおもしろさが見える。

「崇徳」の由来は、書経の「義を明らかにし、徳を崇び、功に報ゆ」と、論語の「徳を崇くし」だと思われる。崇徳館学記にみられるように「学問とは、人間としてどう生きるか」を命題としている。創設当初、門下生の指導にあたった中心人物が秋山景山だ。景山は二

「崇徳」の由来は、書経の「義を明らかにし、徳を崇び、功に報ゆ」と、論語の「徳を崇くし」だと思われる。崇徳館学記にみられるように「学問とは、人間としてどう生きるか」を命題としている。創設当初、門下生の指導にあたった中心人物が秋山景山だ。景山は二

藩校に学んだ河井継之助

河井継之助は藩校崇徳館に通っている。ところが、学校で教える古義学や朱子学にあきたらず、陽明学を学んだ。藩校は九代藩主牧野忠精が、家老山本老迂斎や藩儒の高野余慶らとはかつて創立させたものであった。その理念は人材育成。本来、武骨一辺倒の藩風にあつて、学問は柔弱の徒の修むるものとして軽侮

されてきた。忠精はそういった風潮を一新し、学問を修めた者が政り事を行う資格があるという認識を創りあげた。人材も有用な人物であり、しかも道義に厚い人間性を要求した。そのために型にはまった知識ではなく、豊かな感受性と領民や国(藩)を愛する人材を育てあげるところを藩校とした。

河井継之助は十七歳のとき志を立てて、学問を修めることを天(神)に誓っている。それは長岡藩が豊かで、平等な社会になるよう念じ、みずからが率先者として活躍できるように陽明学を学ぶとしたことにはかならなかつた。教育とは、人材育成とは、米百俵の精神とは何かを藩校サミットを通じて、再考できたことを喜んでいる。(稲川)

藩校の精神から生まれた偉人たち

明治に入り、藩校「崇徳館」で学んだ小林虎三郎によって創立された「国漢学校」、同じく三島億二郎によって創立された「長岡洋学校」へと藩校の精神は受け継がれていきます。そして、その中から数多くの偉人たちが生まれていきました。

小原直(検査官) 1877~1966
旧制長岡中学校に学ぶ。検事となり、シーメンス事件等の大事件を担当。後に司法大臣として入閣。長岡初の大匠となる。

小原直(検査官) 1877~1966
旧制長岡中学校に学ぶ。検事となり、シーメンス事件等の大事件を担当。後に司法大臣として入閣。長岡初の大匠となる。

渡辺廉吉(法制学者) 1864~1900
崇徳館、国漢学校に学ぶ。伊藤博文に認められ、大日本帝国憲法起草に貢献。近代日本の法制化に尽力。育英団団長、岡社創立にも関わる。

堀口九萬一(外交官) 1865~1945
長岡学校に学ぶ。外交官となり、ブラジル、スイエーデンなど世界各国の公使を歴任。退官後は、講演や文筆活動に取り組んだ。詩人堀口大學の父。

堀口九萬一(外交官) 1865~1945
長岡学校に学ぶ。外交官となり、ブラジル、スイエーデンなど世界各国の公使を歴任。退官後は、講演や文筆活動に取り組んだ。詩人堀口大學の父。

小山正太郎(洋画家) 1857~1916
崇徳館、国漢学校に学ぶ。上京し、洋画の技術を取得。国粋運動の中で、洋風美術を擁護し続けた。また、美術教育にも尽力し、多くの画学生を育てる。

小野塚喜平次(政治家) 1870~1944
長岡学校に学ぶ。上京し、政治学を専攻。東京帝国大学法科大学教授。同大議長、貴族院議員等を経て、東京帝国大学総長に就任。多くの学者を育てる。

小野塚喜平次(政治家) 1870~1944
長岡学校に学ぶ。上京し、政治学を専攻。東京帝国大学法科大学教授。同大議長、貴族院議員等を経て、東京帝国大学総長に就任。多くの学者を育てる。

「崇徳」の由来は、書経の「義を明らかにし、徳を崇び、功に報ゆ」と、論語の「徳を崇くし」だと思われる。崇徳館学記にみられるように「学問とは、人間としてどう生きるか」を命題としている。創設当初、門下生の指導にあたった中心人物が秋山景山だ。景山は二

「崇徳」の由来は、書経の「義を明らかにし、徳を崇び、功に報ゆ」と、論語の「徳を崇くし」だと思われる。崇徳館学記にみられるように「学問とは、人間としてどう生きるか」を命題としている。創設当初、門下生の指導にあたった中心人物が秋山景山だ。景山は二



崇徳館学記
長岡市立中央図書館蔵

参考文献、「ふるさと長岡の人々」長岡市「長岡歴史事典」長岡市

サミットでは、実行委員（接待・交流部会長）として、寝る間も惜しんで尽力された佐藤さん。「今回のサミットはいかがでしたか？」とお聞きすると、「一言で言えば大成功だった」とはにかんだ笑顔でおっしゃった。しかし成功の舞台裏では、開催当日の朝まで仕事をしていたとのこと。開催までの二年を振り返り、また、長岡の殿さんと歩んだ日々を語っていた。

殿さんと、共に歩んで三十年

柏友会（旧越後長岡藩藩士会）会長 佐藤 守さん（七十一歳）

「酒好き」の縁

牧野さんと佐藤さんの親しい間柄はもう十数年に及ぶ。きっかけは長岡花火だった。柏友会総会の時に「今年の花火、ご一緒しませんか？ 酒を飲むとあたける暴れる」元気な連中ばかりだけれど……と佐藤さんからお声をかけられた。「酒はもろろん漬物や枝豆、冷えたトマトなんかを屋形船に持ち寄ってね、肩肘張らない花火見物をした。牧野さんにも喜んでもらえて、本当に楽しかった」所用があつて東京に赴いた際「自分は東京の地理がわからないから、牧野さんに道案内をお願い



昨年（2019年）の米百俵まつりにて十七代様自筆の「常在戦場」扇子を手にする佐藤さん。

いして、帰りの新幹線の時刻まで一盃付き合ってもらったこともあつた。世が世ならば許されないよね」遠い日の記憶を辿る。代々、民を大切にされる長岡の殿様ならではのエピソードだ。「そんなご縁もあつて、牧野さんご夫妻と長岡藩士殉節の弔霊祭（於・会津若松市本光寺）に毎年参加している。振り返ると、いい思い出ばかりだ」



長岡を支える「不屈の精神」

「サミットに合わせて牧野家の展覧会を開催してもらおうのが念願だった」という佐藤さんの願いは、展覧会「長岡藩主牧野家と崇徳館」において実現した。長岡商工会議所の美術文化ホールにおいて、六月十三日から二十一日まで開催。総入場者数は一六二六名に上り、企画展においては、近年まれにみる盛況ぶりであった。

「長岡駅での藩主、藩校のお出迎へはよかった。これは牧野さんの発案で『長岡らしいおもてなし』ができた」と語る佐藤さん。長岡高校の生徒が「〇〇藩さん、ありがとうございます」と、改札口で元気のいい出迎へをした。いつ到着するかわからない藩の方もあつたが、朝から正午近くまでスツと整列する姿には長岡藩の教えが垣間見えた。

「口を出したら最後までやり遂げる、有言実行がモットー」という佐藤さんは、サミットでは終始裏方に徹し、決して表舞台には立たなかつた。「資金集めは東奔西走、これはつらかつたね。けれど、色んな方から応援していただき、助けていただいたからこそやり遂げ

佐藤 守（ごとう まもる）プロフィール
皇紀2598年、古志郡上細村に生まれる。長岡献血友の会前理事長。（株）佐藤印刷所代表取締役。昭和55年に柏友会に入会。平成19年から会長として殿様を補佐している。

られた。心から礼を言いたい」長岡には城がない。遺構すら残っていない。しかし、長岡藩の不屈の精神を今なお佐藤さんは守り続けている。大切なことを教わった一日だった。（インタビュー／嘉瀬）

はるかに青山あり 人財と文武と富国—その一— パネル紹介



「成章堂」の扁額 長岡高校記念資料館蔵

学問所之図について

これは長岡藩士であった小川当知が著述した「長陵歳時記」の中に所収されている。二階建ての建物の絵のそばに「学問所」の文字が読みとれる。これが藩校崇徳館だ。総建坪は一六坪、初めは萱葺の二階建てであったが、嘉永六年（一八五三）改築されて平屋造りとなる。学派によって一階と二階とに教場を異にしており、さらに、それぞれ素読生と質問生の講堂（教室）に分かれていた。

古義学派素読生の講堂は成章堂と呼ばれ、そこに掲げられていたと思われる扁額「伊藤東嶽の書」始播（始めて播く）は、現在、県立長岡高校記念資料館に展示されている。

河井継之助も崇徳館に通い、高野松陰、山田愛之助らに学ぶ。そして、高野松陰の影響を受けて、陽明学を学んだといわれている。継之助が二十九歳のときに作った漢詩の一節「十七誓天擬輔国」もパネルに掲載されている。十七歳のとき、政治の道に志を立て国を豊かにする人物になると誓った。

（神保）



子ども達の驚くべき活躍―論語素読の発表のこと―

第八回全国藩校サミット・in長岡実行委員(論語素読担当)
河井継之助記念館友の会理事

松山 賢二

全国藩校サミットでは、これまで子ども達による「論語の素読」が伝統的に採り入れられてきた。それはなにより、全国の藩校が十五歳くらいまでの若い藩子弟の最初の教育事項と位置づけてきたからである。字義や思想背景を学ぶことはもう少し長じてからでよい、先ずは孔子の基本的な訓えを清新で柔軟な頭脳に深く刻みつけることだ、それも近代になって主流となった黙読ではなく、同学の朋と声を合せて音読し、記憶し、身体に定着させることこそが最も肝要なことだ、との考え方であろう。さらに主催地らしさを出すには、この「論語の素読」と地元研究者の研究報告などに限られている。

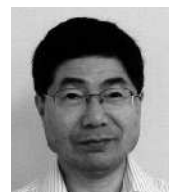
当初、積極的に学ぼうとする子ども達を集めることは困難だった。無理もない。これらの教育が途絶えてから永い年数が経っているからだ。古田島部会長は積極的に動かされた。結果、二十人以上の子ども達が集まった。昨年十一月二十二日を第一回として月に二回、土曜日の午後 realistically、その回数は十四回に及んだ。

熱心な保護者も多数参加した。楽しくて意義ある時間はまたたく間に過ぎていった。

大会当日、子ども達は凛々しく澆刺とそれまでの成果を披露した。会場からは予期しなかった大きく暖かい拍手を頂戴し、子ども達の顔は感動と達成感が溢れた。発表した項目はいずれも「いかに生きるべきか」をちよくせつ直截に論じたものである。会場に溢れる千五百人を超える人々とともに、現代に欠けているものはなにか、そして人間にとって大切なものはなにかを深く学び、胸に刻んだ時空間であった。



●略歴 昭和22年(1947)長岡市に生まれる。長年、学校法人中越学園中越高等学校に勤務する傍ら、精力的に河井継之助の研究を続ける。平成20年同校を定年退職。河井継之助を偲ぶ会事務局長。



藩校サミット・歴史・伝統

長岡高校同窓会事務局長
河井継之助記念館友の会会長

岡村 清

全国藩校サミットの長岡開催は、私たちに郷土の歴史と先人の業績を再認識する機会を与えてくれた。今の自分とのつながりを考えるまたとない契機となったのである。

私も後輩となる長岡高校の学生諸君と一緒に、役割の一端に参加させてもらった。駅頭と会場入口で藩主や藩校関係者の出迎えに当たった。生徒の爽やかな笑顔のもてなしが各藩の当主や藩校系譜校の先生方に好評であったと聞き、素直にうれしく感じた次第である。一般のボランティアの方々と一緒に働いたのであったが、ペアで担当された皆さんからも温かい目で見守っていただいた。

長岡高校は明治五年の長岡洋学校が前身である。その基は米百俵の国漢学校・洋学局であるが、さらにその淵源が旧長岡藩の藩校「崇徳館」になる。校歌の冒頭に、同窓の詩人で作詞者の堀口大學は「翳すゆかりの三葉柏、源淵とほきわが藩の、高き精神を新しく、ここに伝へて」とうたった。ふだんあまり意識するこ

ともなく歌っている校歌のまさにその真髄に、サミットを通して触れることができた。現在この学校に学んでいる生徒たちもきつと同様の思いであろう。

伝統と言えば、常に緊張感を持ち油断することなく事に当たれという「常在戦場」の銘や「文武両道」のモットーもまた、「和して同ぜず」、「剛健質樸」、「豪爽快活」の精神と同様、口に出す出さないにかかわらず、互いに気持ちの中で自然に通い合う絆となり、脈々と受け継がれている。

●略歴 昭和22年(1947)旧越路町浦に生まれる。同41年長岡高校卒業。平成5年から15年の間母校に勤務。同20年定年退職。現在同窓会事務局長。

編集後記

●「個々に合わせた実学を学ぶ」江戸時代の学習方法に驚いた。現代とは違う寛容さ！武士の道や人の道に最も大切な、「徳」とは何かを学ぶ藩校。義に生き、信念を持って時代の荒波に果敢に立ち向かった継之助の原点がそこにある。彼の強い個性や生き方の中に、現代人に欠けているものを見つけ出すヒントがあるのでは。藩校から引き継がれた教育や精神が脈々と受け継がれ現代に至っている歴史に、驚きと感動を感じるとともに、襟を正す思いがした一日でした。(伊佐)

編集人 稲川明雄 嘉瀬宏美 榎澤幸子
伊佐春美 神保智子 西川里美
構成 月刊マイエッセイ編集部
印刷 高津印刷株式会社

おしらせばん

河井継之助を偲ぶ茶会
河井家ゆかりの庭を眺めながら、一服いかがですか。友の会会員には特別価格にて提供します。

日時：8月16日(日)午前10時～午後3時
会場：河井継之助記念館
価格：一般前売り 300円(当日350円)
友の会会員 250円

※おいしいお菓子付
※前売り券は記念館および長岡観光コンベンション協会にて販売中

●友の会会員募集中

河井継之助に興味のある方、学びたい方をご紹介ください。

年会費：
①正会員／小・中学生500円／高校生以上2千円
②協賛会員／1口5千円(法人の他、個人でも可)
※詳細は事務局までお問合せください

口座について
加入者名 河井継之助記念館友の会
ゆうちよ銀行 00560-9-96432
長岡信用金庫関東町支店 普1032829
北越銀行本店 普1764663
大光銀行本店 普3011256
第四銀行長岡支店 普1560562